

「第17回エデュカーレinたかはし」に参加しました



▲ワールドカフェ



▲フリップボードディスカッション

「第17回エデュカーレinたかはし」が7月20日に吉備国際大学国際交流会館で開催されました。このイベントは、井勝久喜教授のゼミの学生が実行委員会を組織して、ワークショップ形式で地域課題の解決策を話し合うものです。

会場では、ゼミの学生が笑顔で参加者を迎え、出席者が打ち解けることのできる雰囲気づくりをしていました。出席者は中学生から大学生、社会人まで38名、高梁市議会議員8名の46名です。チェックイン（自己紹介）の後、7名程度のグループに分かれ、各グループでフリップボードディスカッションを行いました。ここでは、決められたテーマについて各自が意見を書いてグループ内で発表します。フリップボードを使うことで、書いたことが記憶に残り、お互いに議論がしやすくなりました。

休憩を挟んで、次はワールドカフェ方式での意見交換を行いました。7名程度のグループを組んでテーマに従って発言しながら、キーワードを書き出していきま

す。グループを変更して意見交換を行った後、もう一度元のグループに戻って他のグループでの成果も取り入れつつ、再度テーマについて話し合いました。最終的にはグループごとにKP法（紙芝居を使ったプレゼンテーション方式）で発表しました。

これまでの議会報告会では、報告や質疑応答が主でした。今回参加したことで、今後の議会報告会の新たな方向性を見出すことができました。



議員が聴きます、市政の疑問点！

一般質問

9月の一般質問では、11名の議員が執行部に対して質問しました。今議会では、多くの公共施設の利用料金が値上げされること、上水道と簡易水道の統合に伴う料金改定などに対して複数の議員がその必要性などを質しました。また、旧吹屋小学校校舎保存修理工事の工期延長の理由や、今後の方針などについても2名の議員が質問しました。その他、農業や有害鳥獣対策、教育、地方創生事業として始まったアニメスタジオについても質問が行われました。

管外視察



林業再生プランや山林の維持管理手法を研究 産業経済委員会

7月17日・18日
三重県松阪市・京都府南丹市

今回の視察は、市域面積の78%を山林・原野で占められている本市において、山林、原野を活用できないかという課題意識をもとに行われました。

三重県松阪市では、山林の環境維持と地域経済の活性化施策について具体的に説明を受けました。国の再生可能エネルギーの固定価格買取制度を活用し、間伐材に付加価値を見出すことにより、森林の維持管理を促進し、またその買

取金額の半分を地域の商品券で支払うことにより商業にもすそ野を拡げる施策は、大変有用な考え方と認識しました。

また、京都府南丹市においては、早くから森林林業再生プランの先駆けとなるモデル事業を展開し、地域ごとの森林経営計画の樹立に取り組んでいました。それに基づく森林管理システムは、所有者と市、また国・県の役割を明確化しており、大変参考になりました。



▲三重県松阪市での研修



▲京都府南丹市での研修

災害復旧工事が期間内にできるのか

答弁：
状況は厳しい。国や県へ要望していきたい



三村 靖行 議員

- ここを
ぎきました
- ・有害鳥獣対策について
 - ・旧吹屋小学校校舎の保存修理について
 - ・西日本豪雨災害について

有害鳥獣対策室について

三村 有害鳥獣対策室を設置し、3年が経過したが、どのような成果が出ているのか。

産業経済部長 有害鳥獣への対応や対策が迅速にできた。防護柵等は、補助率を3分の1から2分の1に増額し拡充が図られている。

三村 成果はそれだけか。市民は抜本的な対策を求めている。今後どのように取り組むのか。

産業経済部長 成果が目に見えるまで対策室を継続し取り組む。

災害復旧工事について

教育次長 柱の傷みが想定以上で修復作業が増えたが、災害で専門的な大工の確保ができなかった。

三村 業者の責任ではないか。

教育次長 顧問弁護士から業者責任は問えないとのことであった。

三村 災害復旧工事は原則3年、繰り越しすれば4年と決められているが、期間内にできるのか。

産業経済部長 現在の状況では難しい。県や他市と情報交換しながら国等へ要望していきたい。

三村 本体工事に以外に道路や側溝修繕等が必要となるが、どう対応するのか。

産業経済部長 予算不足があれば補正予算で対応したい。

旧吹屋小学校校舎保存修理事業について

三村 補正予算の規模からして、2年もの延長が必要なのか。